

令和 5 年度第 2 回 JCHO 松浦中央病院「地域協議会」(会議録)

(文書送付による書面会議)

○ 文書発送 令和 6 年 3 月 25 日 (月)

○ 書面会議

【出席者】外部委員

堀江 徹 (長崎県県北保健所 所長)

土井 庸正 (佐世保市医師会 副会長)

岡 正文 (松浦市健康ほけん課 課長)

宮崎 直人 (松浦市長寿介護課 課長)

武部 勝海 (北松浦医師会 顧問)

木村 幹史 (北松浦医師会 会長)

押淵 徹 (国民健康保険平戸市民病院 名誉院長)

犬養 順子 (医療法人長愛会菊地病院 理事長)

永淵 勝幸 (松浦市老人連合会 会長)

病 院

萩原 淳 (院長)

野村 晃一 (事務長)

川原 京子 (看護部長)

【病院概況について】

(関係医療機関)

① 時流に併せた施設基準の整備は評価できる。

② 健診部門について

明記されていないので理解が足りないかも知れないのをお許し頂きたいが、人間ドック、特定健診等の件数はどうなっているのでしょうか。

松浦市が実施主体である特定健診後の精密検査、保健指導等、行政との連携を計りながら受入れが進んでいますか。

⇒松浦市の人間ドック、特定健診、および保健指導等を積極的に受け入れることを担当課に申し出ている。特に特定健診については集団検診の受検漏れに対して柔軟な受け入れを行っている。

③ 救急応需率が 85%は評価に値する。JCHO、松浦市への誘致の課題に応じていると評価できる。

④ 今後の地域医療構想にも寄与するであろうことから、松浦市行政と協議の上、松浦市民の医療需要にどの程度応えているのか分析しておくことが望ましい。

⇒第 2 期松浦市医療再編実施計画が令和 5 年 4 月に策定された。

この中で、当院に対して、松浦市地域医の核としての地域医療の中核的な役割を担うことが求められている。特に松浦市が重要視している救急受入機能に関しては松浦市に実績を報告し信頼関係を構築する。

(行政)

地域医療連携室では、在宅担当者からの相談もしやすく、医師や入院部門との窓口となっただけ、医療介護連携の推進にご尽力いただいています。また、退院調整時の連携においても、顔の見える関係ができており、退院調整も円滑にできていると思います。

(医師会)

- ① 救急医療に関しては、その努力に対し大変お世話になっております。感謝されています。今後ともよろしくお願いいたします。
- ② 外来加療の際に予約がない、予約の枠がないとの事で断られたと苦情がよく聞かれます。松浦の患者さんはいつでも診てもらえるのと思っています。電話ですので、予約の意味を分かりやすく説明してください。
- ③ いつでも、何でも治療してくれる病院ではなく、何でも診てくれる病院を目標にして下さい
➡**当院の外来診療科は全て予約制であることを、各診療科に掲示しているほか、HP にも掲載している。電話での予約問い合わせも多いが、必ず予約が必要な旨を懇切丁寧に説明している。今後も予約診療にご理解いただけるよう対応する。**

【松浦中央病院の増床計画について】

(関係医療機関)

当初の建設計画の根拠と、現在の医療需要を鑑み、増床の必要性を策定会議はじめ、県行政当局へ提示していく（民間医療機関の減床、閉鎖等と人口減少との関連から、少しでも 5 年単位くらいで病床数の必要数を検討できないでしょうか。

病床数の分析から、必ずや JCHO の急性期、回復期病床の必要性が確定できると思います。

➡**国の政策とする「2025 プラン」が当院における課題と今後の方針、具体的な計画である。「開設当初の 67 床から順次 100 床までの増床」が、今後の具体的な計画として盛り込まれていることから、今後の医療需要を鑑み、増床の必要性を松浦市及び長崎県医療政策課と協議する。**

(関係医療機関)

増床は紹介側からみると大変ありがたいが、JCHO の医師はじめ職員の負担も一層増加する事が案じられる。医師をはじめ職員戦力の増加を祈っている。

(行政)

整備スケジュールどおりにすすむことを期待しています。

(医師会)

- ① 福島診療所の入院ベッドの廃止に伴い、松浦中央病院が 18 床の増床が認められるようで、合計 85 床になるようです。18 床の増床ベッドを回復期のベッドとなれるように努力して下さい。目標の 100 床は今後の問題として人員(医者、看護師など)の確保の問題もあるので 2025 年のベッド調整会議の時に考えて行きましょう。

- ② 松浦地区での必要ベッド数や許可になるベッド数はどうですか。

県北医療圏を佐世保地区、平戸地区、松浦地区と一体化してベッド数を算定されているようですが、各地区のベッド数はどのようなものですか。➡別表のとおり

佐世保県北医療圏における地域医療構想より							
令和4年度病床数機能報告と2025年の病床の必要数を比較すると、急性期病床については過剰、高齢者医療の中心を担う回復期機能は大きく不足する状況となっている。							
(表) 佐世保県北医療圏における病床機能報告と2025年の病床数との比較（患者所在地）							
区域		区分	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床等
佐世保県北		病床報告	344	1,878	744	1,433	362
		必要病床	322	1,089	1,229	972	-
市町別	佐世保市	病床報告	344	1,535	675	1,032	312
		必要病床	250	847	951	751	-
	平戸市	病床報告	0	264	32	330	18
		必要病床	33	116	136	109	-
	松浦市	病床報告	0	66	20	71	32
		必要病床	24	82	94	74	-
	佐々町	病床報告	0	13	17	0	0
		必要病床	13	44	48	37	-

- ③ 県の医療審議会の了解は取れたのでしょうか。

➡4月30日現在において長崎県医療審議会の了解は得られていない。

【その他のご意見・ご要望】

(関係医療機関)

地域住民の超高齢化に伴い在宅療養、老々介護の増加が予想される。特に「みとり」については、最後まで「自宅」と思っているでも最終局面では、やはり「医療施設」という例が多く出る可能性があり、そういう際の受け皿としても協力していただきたい。

➡当院は訪問看護ステーションを併設しており、利用者およびその近親者の在宅療養、老々介護についても注意深く関わることになる。

これらは病院として避けることができない課題であり、訪問看護ステーションと密に連携し取り組んでいきたい。

(医師会)

- ① 救急対応のため1～2床のベッドが確保出来ないでしょうか。

(一時的に経過観察するためのベッド)

➡増床時において、救急対応のためのベッドは確保することとしている。

- ② 外科系の手術件数が増加しているようですが、その内容は。

➡内視鏡的大腸ポリープ切除術が前年度比で80件程度増加した。

若い常勤の医者になかなか来ない、何が原因でしょうか。地元出身で医者になった人を調べて（以前にも調査した事がある）個々に意向を聞き、勧誘しましょう。

➡地元医師会等からの地元出身者の医師情報を収集し就職希望者を募っている。引き続き、地元出身者の医師にターゲットを絞り交渉をすすめたい。

- ③ 地域協議会は生の意見を聞き、検討したいこともありますので、次回は書面会議でない事を検討して頂きたい。

➡今回の開催は年度末であり、日程調整が難しいと判断し書面会議方式とした。

令和 6 年度第 1 回開催は 8 月下旬に通常開催を予定している。